2006年7月17日ジャワ島南西沖地震津波の痕跡と堆積現象

＜七山　　太・斎藤　文紀＞

大津波に襲われると，海岸地域には土砂や倒木による大規模な痕跡が残されることは，よく知られている．我々は2006年7月17日ジャワ島南西沖地震津波の被災地において津波痕跡を視察する機会を得たので，その産状を報告する（本文参照）．

a：津波遡上限界付近（矢印）に生じた浮遊物の集積帯．海水の影響を受けていない棚田の稲は生き残っている（カリプカング）．
b：戻り流れによってに生じた樹木の倒木と流水による洗掘作用（カリプカング）．矢印は戻り流れの向き（海側）を示す．
c：水田跡の表層を広域に被う黄色の津波堆積物（カリプカング）．
d：下位の中～粗粒砂層が泥質細粒砂層に被われている（カリプカング）．
e, f：津波によって打ち上げられたヒトデ，ウニ，魚類等の生物遺骸（カリプカング）．

g：津波の遡上方向を示す流木．海側に重い根っこがある点に注目（カリプカング）．
h：津波の遡上方向を示す倒れた草（カリプカング）．
i：海岸付近の斜面に残された複雑な流れの痕跡（カリプカング）．
j：海側に傾動した椰子の木（パンガンダラン西岸）．戻り流れの影響を示す．
k, l：戻り流れによって生じた大規模な沿岸浸食の痕跡．0.5～0.8m程の浸食崖が広域に生じていた（パンガンダラン西岸）．